改善方策実施計画書

担当部局：人文科学研究所　責任者：人文科学研究所長　幹事：文学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	各研究班の研究活動内容や状況について、より一層の相互理解を深める必要がある。
改善方策	6-29-1「研究報告会」を学内外に公開し、各研究班の活動内容や成果をオープンにする。 研究所主体の講演会やシンポジウムを定期的に実施する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
研究報告会開催の周知（学外を含む） 研究報告会開催 ※次年度以降継続実施	2010.10 2010.11	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
研究報告会の回数および内容量の増加を検討する 定期的な講演会の実施計画を作成する	2011.4 2010.10	A完全に達成　○ B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由） 研究報告会は２回開催することができたが、講演会は講師との日程調整が折り合わず実現しなかった。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
講演会を含む研究報告会（年２～４回予定）の実施 ※次年度以降継続実施	2013.3	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
研究助成申請体制強化を目的とする座談会等会議を、ゲストを招いて年１～２回実施する。公開研究報告会と研究員座談会を年２回実施する。『研究所所報』に研究活動記載要領を定める。	2014.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
研究助成申請体制強化を目的とする座談会等会議を、ゲストを招いて年１～２回実施する。公開研究報告会と研究員座談会を年２回実施する。	2015.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
研究助成申請体制強化を目的とする座談会等会議を、ゲストを招いて年１～２回実施する。公開研究報告会と研究員座談会を年２回実施する。	2016.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	各研究班の研究活動内容や状況について、より一層の相互理解を深める必要がある。
改善方策	6-29-1「研究報告会」を学内外に公開し、各研究班の活動内容や成果をオープンにする。 研究所主体の講演会やシンポジウムを定期的に実施する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年 11 月 13 日（土）に研究報告会を開催した。４つの異なる分野の研究班の研究員による発表および、欧米系の学外特別講師による講演、また専任研究員による研究班の枠を超えた共通研究テーマへの提言発表などバラエティに富んだ内容となり、相互理解を深めることができた。

また研究報告会の開催および報告を、ホームページで公開した。

所見	計画通り計画が実施されており、今後も期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

２０１１年１１月１９日（土）、２０１２年２月２５日（土）の２回の研究報告会を開催し、複数回の開催を実現することができた。２回で合計９名の研究員が報告を行い、今年度研究班１０班のほぼ全班から報告者を出すことができた。各報告後には分野を超えた活発な質疑応答が行われ、今年度より設定した統一研究テーマに相応しい研究交流を行うことができた。

外部講師による講演会は、打診していた講演者の都合と大学院入試が重なり実現しなかった。来年度以降は大学行事日程を考慮した時期の選定や講演者との調整をはかる必要がある。

所見	研究会が 2 回開催され活発な質疑応答が行なわれたことは高く評価できます。今後も更なる継続と進化が望まれます。次年度の確実な講演会の開催を望みます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】公開研究報告会を秋・冬に実施し、計８班の報告に質疑応答がなされ研究班間の相互理解を深めた。公開研究報告会開催をホームページに掲載し周知につとめた。研究テーマの相互理解と研究所業務に関する意見交換を行う研究員座談会を設け、研究助成申請体制強化方策、横断的新テーマの模索を可能にする形態について意見交換を始めた。講演会については、既存研究班を横断する新テーマの模索と研究助成申請体制強化により効果的と考え、研究助成申請実績者のゲスト２名を迎えての座談会に変更し、具体的な提案や意見を交わし有意義な会議となった。また、研究内容の相互理解ばかりでなく、共同研究班としての活動についての相互理解を進めるため、全研究班に活動報告をするよう要請し、次年度から研究所所報に反映することを確認した。

所見	研究会が活発化され、班の数も増加し、座談会で様々な意見が交換されたことは高く評価できます。活動の更なる活発化と活動報告の開示を期待しています。

改善方策実施計画書

担当部局：人文科学研究所　責任者：人文科学研究所長　幹事：文学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項	【総評】教員の学会への参加者数、科学研究費補助金など外部資金の獲得は十分とはいえない。
点検・評価問題点	研究助成を得て行われる研究プログラムが展開されていない。
改善方策	6-29-2 科学研究費補助金や民間の基金にアプローチして経済的基盤を強化する。

計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→					→

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
共通研究テーマの検討 共通研究テーマの決定 共通研究テーマに基づく研究班の募集	2010.4 2011.1 2011.1	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
共通研究テーマによる実際の研究班の活動 ※次年度以降継続実施	2012.3	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
現共通テーマに固執することなく、柔軟に助成申請体制の基盤作りを進めるほか、助成金申請を目的に各班を横断する新テーマも模索できる体制について検討を始める。	2013.3	A完全に達成　○ B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）研究助成申請を可能にする体制作りに着手したばかりである。しかし、既存研究班単位では１つの班が科学研究費補助金申請するにいたった。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
共通テーマに固執せず、柔軟に研究助成申請できる体制基盤を強化し、研究助成金を申請する。また班を横断する新テーマも模索できる体制を継続して検討する。	2014.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
現共通テーマに固執せず、柔軟に研究助成申請できる体制基盤強化を継続し、研究助成金を申請する。また、研究助成申請を目的に班を横断する新テーマも模索できる体制を継続して検討する。	2015.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
現共通テーマに固執せず、柔軟に研究助成申請できる体制基盤強化を継続し、研究助成金を申請する。また、研究助成申請を目的に班を横断する新テーマも模索できる体制を定める。	2016.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	【総評】教員の学会への参加者数、科学研究費補助金など外部資金の獲得は十分とはいえない。
点検・評価問題点	研究助成を得て行われる研究プログラムが展開されていない。
改善方策	6-29-2 科学研究費補助金や民間の基金にアプローチして経済的基盤を強化する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年 5 月の研究部会において共通研究テーマの設定を提案し、意見交換を行った。また 11 月 13 日の研究報告会における共通研究テーマへの提言発表を経てさらに検討を行った。従来は学部の理念・目的とは必ずしも連動した研究班とは言えない状態であったが、共通テーマの選定に充分な時間を使い、学部全体の意思確認に依ってテーマを決定した。学部の理念・目的とも共通する「人間学としての文学」というテーマのもとに a. 情報化と創造性、b. 子ども像の変遷、c. 歴史の記録と記憶という３つのサブテーマを設け、それらに基づく研究班の募集を行った。文学部附置の研究所として、学部の所属する５学科の特徴を出せる共通テーマのもとに６つの班が形成された。

所見	計画通り計画が実施されており、今後も期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

共通研究テーマのもとに一年目の研究班の活動を行った。具体的な個々の研究班の活動および、刊行物の作成、研究報告会の実施は従来通りであったが、共通研究テーマを念頭に置いた論文の投稿、研究報告会での発表・質疑応答が行われた。また来年度も引き続き同じテーマで活動することを承認し研究班の募集を行い、新たに５班の研究班が加わり、これですべての班が共通研究テーマに属し、また３つのサブテーマすべてに研究班が置かれることとなった。

共通テーマのもとでの各班の研究は順調であるが、外部資金獲得を可能にする共同研究体制はまだ成熟していない。

所見	研究班が新たに多く加わり、その統一がなされていること、サブテーマにすべて研究班があることは、研究体制が整ったことを意味し、大いに評価できます。更なる進化と進展が望まれます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】現共通テーマでの各研究班活動は、今年度の報告書が４班５冊に上ったとおり充実している。しかし、現共通研究テーマは、既存研究班の各テーマを包括するものではあっても、研究助成申請を可能にするシャープなテーマとは言えず、必ずしも研究助成に直接しないため、年度当初から研究助成金申請を可能にする基盤を固める取り組みに重点を移し、研究部会や研究員座談会、さらに研究助成金申請体制を考える座談会を開催したほか、研究助成金申請班を優遇する予算配分方針への転換を図った。その成果として、既存の１つの研究班が科学研究費補助金申請するにいたった。

所見	研究班活動の報告書が５冊刊行されたことは評価できます。助成金申請の体制作りが進んでいることも評価できます。今後は科学研究費補助金が獲得できるよう一層の努力をされることを期待しています。

改善方策実施計画書

担当部局：人文科学研究所　責任者：人文科学研究所長　幹事：文学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	研究所保存の蔵書が増加傾向にあり保管場所の確保が必要である。					
改善方策	6-29-3 大学図書館の蔵書に移管するための協議を開始する。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
研究所蔵書及び保管スペースの現状調査 図書館長との協議開始	2010.10 2010.11	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 図書館長との協議を持ったが、図書館の現状や、他の附置研究所との関連もあり、立案準備に至っていない。

2011年度実施計画	達成時期	2011年度取り組み結果
研究所蔵書の見直し ※以後継続実施 図書館長との再協議 移管計画の立案	2011.5 2011.7 2011.7	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由） 図書館長との再協議を行ったが、進展がなく移管計画の立案に至っていない。

2012年度実施計画	達成時期	2012年度取り組み結果
他研究所の蔵書保管状況の調査及び、保管策の検討 分置図書及び研究所蔵書の有効利用方法の検討	2013.3	A完全に達成 ○ / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）図書館への移管が困難であることと、研究所内の耐用重量が確認でき、当研究所独自の蔵書管理に関する規程を定める方針を研究部会で決議したに止まる。

2013年度実施計画	達成時期	2013年度取り組み結果
当研究所の性格を反映した独自の蔵書管理に関する規程を制定し、研究終了後一定の年限を経た関係図書から規程を適用するとともに、利用度の高い書籍の有効活用も推進する。		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

2014年度実施計画	達成時期	2014年度取り組み結果
蔵書管理に関する規程に従って、研究を終了し一定の年限を経た関係図書から順次、規程を適用するとともに、利用価値の高い書籍の有効活用を推進する。		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

2015年度実施計画	達成時期	2015年度取り組み結果
蔵書管理に関する規程に従って、研究を終了し一定の年限を経た関係図書から順次、規程を適用するとともに、利用価値の高い書籍の有効活用を推進する。		A完全に達成 / B達成半ば / C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	研究所保存の蔵書が増加傾向にあり保管場所の確保が必要である。
改善方策	6-29-3 大学図書館の蔵書に移管するための協議を開始する。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

図書館長との協議を持ったが、図書館の収容量が既に図書館の蔵書だけで逼迫している現状、また他の附置研究所も同様の問題を抱えている状況がわかり、一研究所としての移管計画を再検討する必要が生じている。

所見	一研究所のみの問題ではなさそうなので、各研究所で相互の情報交換、計画の検討を行ってはどうか。 図書館と図書分置の問題を充分に協議しながら、問題の解決を図ってください。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

図書館長との再協議を行ったが、進展がなく移管計画の立案に至らなかった。

今後は他研究所の状況を調査し、蔵書保管の全学的な対応を上申していく必要がある。

また研究所内においては、現在専任研究員の元に分置されている図書の有効利用や、退職教員から返却された分置図書の保管など、蔵書の利用と保管に関する対応策を検討する必要がある。

所見	蔵書の保管・移管の問題は全学的な問題であることを提起し、全学における図書の管理をどのようにすべきかについて、全学的な解決を図るよう図書館に働きかけることが必要です。その意味において、上申と学部長への進言を進めながら、有効利用を含む対応策を徐々に確実に図っていくことが望まれます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

蔵書保管場所に関しては研究部会で年度当初から協議を重ね、図書館への移管に見通しが立たないことや、研究所内の耐用重量が確認できたことから、全学的視野での方策を思案するばかりでなく、図書館・東洋研究所・書道研究所等で対応の調査結果をもとに、従来、当研究所で運用してきた「運営に関する確認・合意事項」を充実させた蔵書管理規程を定めて対処する方針を決議した。また研究を終えて一定年限を経た図書の整理と再活用を進める作業場が必要であることから、研究室特別借用を申請した。

所見	図書館への移管が困難な状況から、一時的措置として、空いた研究室を特別借用することはきわめて適切であると考えらます。蔵書の重要性に鑑み、蔵書管理規定を定め、柔軟に対処されるよう要望します。決して廃棄に移ることがないよう要望します。

改善方策実施計画書

担当部局：人文科学研究所　責任者：人文科学研究所長　幹事：文学部事務室

2010年7月16日

認証評価指摘事項						
点検・評価問題点	文学部５学科の専任教員の専任研究員への参加人数（比率）が、偏っている。					
改善方策	6-30 専任研究員の参加比率を一定の比率にする方式を文学部として作り上げる。					
計画	前期		中期		後期	
	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
	→					→

2010年度実施計画	達成時期	2010年度取り組み結果
次年度共通研究テーマの設定 共通テーマの提示・研究員募集 学科主任への研究員募集への協力働きかけ ※次年度以降継続実施	2010.10 2011.1 2011.1	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）
2011年度実施計画	**達成時期**	**2011年度取り組み結果**
共通研究テーマに基づく新研究班（６班）の活動 前年からの継続研究班における共通研究テーマとの調整 次年度共通研究テーマの設定（調整） 共通研究テーマの提示・研究員募集 ※次年度以降継続実施	2011.12 2012.1	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）
2012年度実施計画	**達成時期**	**2012年度取り組み結果**
共通研究テーマに基づく研究班の活動 次年度共通テーマの設定（調整） 共通研究テーマの提示・研究員募集 ※次年度以降継続実施	2013.3	○ A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）
2013年度実施計画	**達成時期**	**2013年度取り組み結果**
共通テーマのほかに、研究助成申請を目的とする学科を横断する新テーマにも考慮しつつ、研究班を募集する。専任研究員比率に学科間の偏りが生じないよう、研究員に関する規程の抜本的改正について審議する。	2014.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）
2014年度実施計画	**達成時期**	**2014年度取り組み結果**
共通テーマのほかに、研究助成申請を目的とする学科を横断する新テーマにも考慮しつつ、研究班を募集する。専任研究員比率に学科間の偏りが生じないよう、研究員に関する規程の抜本的改正について審議する。	2015.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）
2015年度実施計画	**達成時期**	**2015年度取り組み結果**
共通テーマのほかに、研究助成申請を目的とする学科を横断する新テーマにも考慮しつつ、研究班を募集する。専任研究員比率に学科間の偏りが生じないよう、研究員に関する規程の抜本的改正を行い、次年度から施行する。	2016.3	A完全に達成　B達成半ば　C未達成 （BまたはCの理由）

改善方策経過報告書

認証評価指摘事項	
点検・評価問題点	文学部５学科の専任教員の専任研究員への参加人数（比率）が、偏っている。
改善方策	6-30 専任研究員の参加比率を一定の比率にする方式を文学部として作り上げる。

(2011 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

2010 年 5 月の研究部会において共通研究テーマの設定を提案し、意見交換を行った。また 11 月 13 日の研究報告会における共通研究テーマへの提言発表を経てさらに検討を行った。共通テーマの選定に充分な時間を使い、学部全体の意思確認に依ってテーマを決定した。「人間学としての文学」という大テーマ、a. 情報化と創造性、b. 子ども像の変遷、c. 歴史の記録と記憶という３つのサブテーマに基づき研究班の募集を行い、その結果２名の新しい研究班代表者（専任研究員）を含む６つの班が形成された。またこれとは別に研究所申し合せ事項（内規）を再確認し、継続研究班の兼任研究員について年齢などの適正化をはかり、専任研究員の比率は若干向上した。

所見	計画通り計画が実施されており、今後も期待する。

(2012 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

共通研究テーマのもとに一年目の研究班の活動を行った。具体的な個々の研究班の活動および、刊行物の作成、研究報告会の実施について、共通研究テーマを念頭に置いた内容構成、研究報告会での発表・質疑応答が行われた。また来年度も引き続き同じテーマで活動することを承認し研究班の募集を行った。新たに欧米系の２班、書学系１班を含む計５班が加わり、これですべての班が共通研究テーマに属し、また３つのサブテーマすべてに研究班が置かれることとなり研究領域の広範化が実現した。また専任研究員の参加比率は、前年度 28%から 32%と若干向上した。さらに専任教員の定年が６５歳に引き下げられたことによる研究所の申し合せ事項（内規）の研究員の年齢を定めた条項の精査を行った。

所見	共通テーマのもとの研究班活動による研究領域の広範化は高く評価することができます。このことをより浸透させることによって、専任教員の参加比率を継続的に上げていくことがこれからも望まれます。

(2013 年 3 月 31 日現在)

【現状の説明】

今年度に募集を行い承認された次年度の研究班は、研究代表者の所属学科が日文１、中国２、英米３、教育２、書道２班、専任研究員単位では日文２、中国６、英語６、教育６、書道４人であり、学科を横断する研究班もあり、学科間の偏りは是正されている。しかし、今後も研究員数に学科間の偏りが生じないよう、研究員に関する規程を抜本的に見直すことを決議し、改正に向けて検討を始めた。

所見	研究班は 1 班当たり 2～3 人であり、1 班当たりの研究員数を増加させるか、新たな研究班を作るか、学際的なテーマにしてより幅広い分野からの研究員の獲得を目指すようにして、専任教員の参加を促すよう継続して行ってください。規程の見直しに期待しています。